

『大学公開講座の上手な活用法』

桜美林大学名誉教授
(財)日本生涯学習総合研究所 理事
大学公開講座研究会 相談役
瀬沼 克彰

日本の生涯学習は、欧米の大学中心と異なって、大学をはじめ、行政・カルチャーセンター・各種団体など、とても多様なセクターから提供されているのが、大きな特徴です。それだけに、大学の力が、生涯学習分野では、相対的には小さくなっているのが現況です。大学が提供する公開講座の受講者は、平成18年の65万人から20年には115万人にまで増加していますが、カルチャーセンターの受講者数は、18年の71万人から20年には663万人と大幅に増加しています。

両者は、講座の目的も内容も成果も、まったく異なりますので、同一線上で論じることが出来ません。しかし、大学公開講座ならではの魅力とメリットを高めて、多くの受講者を増やしていかないといけないでしょう。ここでは、大学公開講座の目的と内容を理解して、どこの大学の何を選ぶかについて述べ、さらに履修後の成果、学習継続の方向についても、言及してみたいと思います。

1、講座選択の目的と内容

大学公開講座（以下：公開講座）を受講する目的は、人によってそれぞれ違います。大事なことは、自分が何のために学習するのかということです。そして、何故、大学を選択するのか初めにじっくり考えてみる必要があります。

文部科学省（以下：文科省）の調査（開かれた大学づくりに関する調査 2005年）によると、受講目的は次のようになっています。

- | | |
|-----------------|-------|
| ① 知識・教養を深めたい | 86.2% |
| ② 余暇を充実させたい | 65.9% |
| ③ 交流関係を深めたい | 33.7% |
| ④ 専門知識・技術を習得したい | 24.2% |
| ⑤ 仕事に役立てたい | 14.5% |

目的は1つだけでなく、2つ、または3つあっても良いと思います。自分が何のために学習するのか、きちんとした目的意識を、しっかりと持って臨むことが大切です。

目的がはっきりと決まると、次に受講する講座の内容も明確になってきます。

参考までに、日本の大学全体で実施されている公開講座の種類別の比率を、同調査から引用してみました。

① 一般教養	24.7%
② 語学	19.4%
③ 専門・職業	18.2%
④ 現代的課題	17.4%
⑤ 趣味	13.4%
⑥ その他	3.6%
⑦ スポーツ	3.3%

この調査では、便宜的に7つの分野に分けていて、受講者が実際に選択する講座は①一般教養であれば、自分史・笑い・聖書・江戸期・心理学・源氏物語などと数多い科目が提供されています。

ちなみに、1大学あたりの公開講座の講座数がどうなっているかを調べてみますと、同調査では以下のように分布しています。

・ 9講座以下	25.9%
・ 10～19講座	18.8%
・ 20～49講座	23.6%
・ 50～99講座	14.1%
・ 100～199講座	9.3%
・ 200講座以上	7.0%

公開講座の内容や種類は、各大学によって千差万別です。選択に当っては、多くの人が大学のブランド（イメージ）を重視しますが、この講座数の規模というのも大事な選択肢になっています。つまり、専門店かデパートかという選び方です。

2、どこの大学のどの講座を選ぶか

さて、講座を選択する目的と内容をはっきりさせたら、次のステップは、受講する大学を決めることです。決定する際の条件を文科省の同調査の統計から引用してみました。

① 立地・交通利便性が良い	57.9%
② 受け易い開講日・時間となっている	57.2%
③ 先生が熱心・ていねいに教えてくれる	53.7%
④ 大学の先生や専門家が教えてくれる	53.7%

- ⑤ 講座内容の質が高く、充実している 52.7%

この条件で考えると、お目当ての大学と講座名は決定できると思います。

平成23年3月11日の東日本大震災以降は、特に①立地・交通利便性が重視されるようになってきています。多くの地域で帰宅難民が出て、帰宅できなくて、大学で一夜明かした受講者も出ました。今後は、さらに近場志向は重要になってくるでしょう。

近年、どこの大学でも、お試し受講に熱心に取り組みはじめました。その理由は、講師と受講者のミスマッチを出来るだけ少なくしたいからです。特に、語学系は、レベル・グレードがあるので、試しに受講してみて、自分に合っていないとわかったら、講座を変更させてもらおうと良いでしょう。同調査でも、この点は、次のように数字を出しています

- | | |
|------------------|-------|
| ① 先生が熱心に教えてくれる | 68.8% |
| ② 職員・スタッフの対応が良い | 56.8% |
| ③ 講座の質が高く、充実している | 49.0% |
| ④ 受講料が安価である | 48.8% |

これらの項目の多くは、実際に講座に出席してみないとわからないこともあります。それで、最近、かなり多くの大学がクーリングオフ制度を取り入れています。

次は具体的にアクションを起こしてみることにになります。数多い講座の中から第1希望・第2希望を決めておくと、定員いっぱい募集停止の場合であっても、慌てることなく選択することが出来るでしょう。はじめての時は、電話・ネットだけの照会だけでなく、大学の窓口や教室を訪ねることを勧めます。

3、継続の方向

公開講座の選択が済んで、実際に申込みも終わり、大学に通い出しました。そうすると、これまで思っていた、大学のイメージや親しみも、大きく変わってきます。この点についても、文科省の同調査の結果を、引用してみました。

- | | |
|------------------|-------|
| ① 大学への親近感が増した | 74.6% |
| ② 大学でもっと勉強したくなった | 28.7% |
| ③ 大学に対する理解が深まった | 19.0% |
| ④ 大学関係者の知り合いができた | 10.2% |

この数字を見ると、日頃は余り接触のない大学というところが身近な存在として、親しみが出てきている様子がわかります。私は、長年、社会人・中高年にとって公開講座は、大学の入り口と説いてきました。次の同調査結果からもわかるように、近年、

公開講座からいろいろな学びの方向に進む人が、増えてきています。

- ① 大学図書館が利用できて、独自に学習できればよい 29.7%
- ② 単位の取得につながらなくても、大学生と一緒に授業を受けたい 26.2%
- ③ 正規の学生ではないが、学生と一緒に授業を受け、興味のあるものは単位取得したい 20.0%
- ④ 正規の学生になって学位取得を目指して本格的に学びたい。 2.1%

大学の制度からみると、②は聴講生、③は科目等履修生、④は正規入学生と表現されます。

私が生涯学習センター長を務めていた時の経験を披露しますと、毎年、公開講座の受講者でもう少し深く学びたいという人が出てきましたので、②・③・④の順序で、大学で学びつづけることをアドバイスしました。自分が学習したい内容に最も適した教員はどなたかを、いろいろなデータを示して本人が選ぶことをすすめました。この先生でいきたいとなったら、授業料はやや高くなりますが、③の科目等履修生に移ることをアドバイスしました。③には、単位の累積加算というしくみがありますので、大学院の場合、10単位まで取得可能です。また、毎年、平均2名位の④の正規入学者を迎え、ほとんどの人が2年で修士課程を修了しました。

大学との関係は学位取得だけが目的ではありません。私は、公開講座の受講、春のOB会や研究会への参加をすすめます。私が立ち上げを支援した会には、10年以上活動している会もあり、現在でも一緒に研究会や懇親会などで交流を続けています。